

〈名画の扉〉

大川美術館企画展から

石内都さん（桐生市かぶ破れたドレスに生まれ）は、2007年から毎年のように広島を訪れ、被爆した人々が残した衣服を撮影しています。さまざまな爆風や劫火（こうか）でやぶれてしまった衣服は、これを着ていた人のことばにならないほどの苦しみ、痛みを伝えています。現在開催中の「70年目の原爆の凶」展では、最後の展示室に、「特別出品」としてこの作品を一点だけ展示しています。暗い展示室の中で、透明な光の中に浮

石内 都（1947年〜）

2007/2015年  
発色現像方式印画、154cm×100cm

「ひろしま#71」展示風景



（撮影：狩野博賢）

（田中）